

全国 保健師長会 だより

第38回全国保健師長会 代議員総会報告

平成28年11月26日(土)に奈良県橿原市において、第38回代議員総会が開催されました。冒頭、青柳玲子会長から「あらゆる世代や健康レベルの方が安心して健やかに暮らせるまちづくりをめざし、関係機関との連携を強化し、PDC Aサイクルに基づいた主体的な公衆衛生看護活動を展開することが使命であり、地域に責任をもった保健師活動を展開していくこと、全国保健師活動の発展のために会員一丸となって取り組んでいく」とのあいさつがありました。

来賓祝辞では、厚生労働省健康局長代理健康課保健指導室長の島田陽子氏、奈良県知事代理副知事の浪越照雄氏、橿原市長の森下豊

展開」で、活動方針としては、1. 専門性の高い公衆衛生看護活動の強化 2. ブロック・支部活動の強化 3. 被災地における保健師活動の可視化および各自自治体における災害時対策の取り組みの促進 4. 会員数の拡大です。

最後に次期開催県である新潟県支部長の権平範子氏よりあいさつがあり、閉会となりました。

(文責＝広報委員会)

平成28年度奈良県 研修会報告

平成28年11月24日(木)～25日(金)に奈良県橿原市の橿原ロイヤルホテルにおいて、「今、リーダーに問われている保健師の人材育成、期待されていること」をテーマに全国保健師長研修会が開催され、全国から284人の参加がありました。

研修会1日目の冒頭、奈良県知事代理副知事の浪越照雄氏から奈良県は保健師ネットワークを提唱し、県と市町村の連携強化を図る取り組みをしているご報告と、歓迎のあいさつがありました。

最初の講演は、厚生労働省健康局健康課保健指導室室長の島田陽

平成28年度第38回全国保健師長会 代議員総会報告 平成28年度奈良県研修会報告

全国保健師長会 会長 青柳玲子

氏、全国保健師長会会長の宇田英典氏、日本看護協会会長代理常任理事の中原育美氏から保健師長会へ期待を込めたメッセージをいただきました。

今年度は「今こそ 保健師が地区担当する意味を考える」担当地区に責任をもつとは「をテーマに開催。基調講演では、日本看護協会常任理事の中原育美氏からお話をいただきました。

現在、地域全体を把握し、人々の安全で安心な生活を総合的に判断し、必要な施策や事業を展開する保健師機能が低下している状況があることから、保健師活動の本質である「地域をみる・つなぐ・動かす」「予防的介入の重視」「地区活動に立脚した活動の展開」を生かし、地域に足を運ぶなどにより、個人や家族・地域の暮らしを知り、

施策化することが、地区担当制を成功させる条件であるとのことお話でした。

引き続き、天理医療大学の志野泰子特任教授を座長に3人のシンポジストから発表がありました。まず、兵庫県東播磨県民局明石健康福祉事務所健康参事兼地域保健課長の藤原恵美子氏より「県保健所の取り組み」と題して、県は地区担当が難しいといわれているが、保健師が生き生きと活動し、地域への愛情をもつまでになった経過について報告がありました。次に、大阪市淀川区役所保健副主幹兼保健福祉課担当係長の宮川淳子氏より「政令指定都市の取り組み」と題して、地区診断を行い、課題を地域の関係者と共有化しながら活動を展開している日々の活動こそが地区担当を支えていると

子氏が「地域保健をめぐる国の動向」と題して、「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会」を基に統括保健師や、個別性に着目した人材育成の必要性等保健師の人材育成体制構築の推進と、頻回に発生している自然災害に対応するための保健師の役割、健康の保持増進のための保健指導のあり方等についての保健師の果たすべき役割と期待について話されました。午後からは、元島根県立大学看護学部准教授の永江尚美氏がテーマを「保健師の人材育成について」求められる能力と職場での体制づくり」として、「保健師に係る研修のあり方等に関する検討会」の最終取りまとめや、保健師活動指針を実践の中で生かすポイントについて講演されました。

シンポジウムではテーマを「各立場から、保健師の人材育成について」として、講演に引き続き永江尚美氏を座長に、「政令指定都市堺市における保健師及び、保健専門職員の人材育成について」を堺市堺保健センター調整担当主幹の平井斉子氏が報告され、次に、奈良県中和保健所健康増進課健康づくり推進係長の福井恵美子氏に

よる「保健所における人材育成」新任保健師研修」、「滋賀県医療福祉部健康医療課課長補佐の佐福井美代子氏による「滋賀県における人材育成の現状と今後の方向性」と、おのおの立場から実践報告がありました。その後フロアとのディスカッションがあり、人材育成に関する意見交換を深めました。研修会1日目の最後には奈良県のキャラクター「せんとくん」が登場し、「せんとくんダンス」を披露し、会場を沸かせました。

研修会2日目は「これからの保健師活動に求められること」と題して、青柳玲子会長が講演されま



第38回全国保健師長会代議員総会の様子



奈良県研修会の様子

報告がありました。最後に、彦根市健康推進課課長の五坪千恵子氏より「市の取り組み」と題して、地域診断を行い、担当地域の健康課題や特徴がわかり、保健師が自分の担当地域を語れるようになったプロセスについての報告がありました(基調講演およびシンポジウムの資料は全国保健師長会HPに掲載しております)。

午後の総会では、提案された議案はすべて承認されました。平成29年度の活動テーマは「社会の課題に向き合う公衆衛生看護活動の」でした。青柳会長は全国保健師長会として、保健師活動の課題と今後の方向性について、また、新潟市西区黒崎地域保健福祉センター長の立場から、新潟市の高齢者対策を大学と協働して実践している旨の報告をされました。続いて、「災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)について」保健師の役割とは「と題して、和歌山県橋本保健所の池田和功所長が講演され、「災害時の対応は、知識、技術の問題よりも管理の問題が大きいく、平時にできないことは非常時にはできない。日ごろから関係機関とよい関係を築いておくことが重要である」と締めくくりました。

最後は、「災害時に行う保健活動のマネジメント」と題して、国立保健医療科学院席主任研究官の松本珠美氏の講演で、災害時に求められるマネジメントの説明のあと、災害時に行う保健活動のマネジメントに必要な発災前の準備について演習が行われました。演習は、地域で災害が起きたときの対応を身近にとらえることができ、保健師活動の重責を感じる研修でした。

(文責＝全国保健師長会奈良県支部)